

三箇校区福祉だより

三箇校区福祉委員会 No.80

しあわせ
福祉広げて



共に学び共に生きる

令和3年12月(2021年) [編集・発行] 三箇校区福祉委員会

〒574-0077 大東市三箇4丁目1番5号 (電話) 072-873-8878

元気でまっせ体操

《開催予定日》

12月 1日(水)

12月 8日(水)

12月 15日(水)

12月 22日(木)

コロナで休みの多かった年でしたが来年は体操の多い年になりますように。

- ◆ [三箇自治会館]
午前10時～11時 (マット不要)
 - ◆ [三箇二丁目公民館]
午前10時～正午
 - ◆ [新和町自治会館]
午後1時～2時30分
- (※ 都合で中止になる場合があります。)



昨年より猛威を振るい、人間の生きる世界に数々の脅威と不安を与えてきた新型コロナの感染状況も、日本の人口の約76%の人にワクチンを接種してきたおかげで、ようやく感染する人も目に見えて減少して来るようになりました。まだまだ安心する状況ではありませんが、感染者の数が減少してくると、ほっとすると、まだまだ油断はならないと、自分の心に問いかけながら毎日を過ごす日々ですね。皆さまはいかがでしょう。このような大変な時代を生きている私たちですがちょっとほっこりするエピソードがありましたので、お知らせをさせていただきます。当地域住民の男性で一人住まいのAさんの事です。78歳のAさんは今年になり、体調を崩してしまいました。日常生活をするのも大変な状況で、ゴミ出し、洗濯、家の清掃と、ほとんどの家事が出来なくなりました。その中でも特にゴミ出しの負担が大変でした。ゴミ出しをしなればと思いつつ実行できずにいると、アッという間に家の中がゴミで一杯になりました。ご近所からゴミの悪臭の苦情でAさんは精神的に大変苦勞をされていましたが、当地域の民生委員、CSWの担当者、北部包括の担当者、の皆さんが勇気を出し、知恵を出し、団結をして大東市の環境課へ相談をしました。その結果、10月14日に、3トンのパッカー車1台分のAさんの家のゴミがすっかりなくなり、スッキリしました。Aさんはもちろん満面笑顔になりました。Aさんに寄り添い支援をしてきた皆さんも、Aさんの喜ぶ笑顔を見て達成感で一杯になりました。このように地域の福祉活動は支援者、被支援者共々に笑顔で暮らせることが非常に大切ですね。今年も早いもので、あと1カ月でお正月を迎えます。皆様どうか健康で明るく希望に満ちた新年をお迎えください。

三箇二丁目自治会 会長 村山 茂博





今年も最後の月になりました。昔と違って年末年始のお休みを取らないお店が増えてお正月の準備も2～3日分あれば充分ですね。楽になった分、新しい年を迎える改まった気分が薄れてきているように思います。子供の頃に比べて年末年始の特別な雰囲気年々なくなってきていることに少し寂しさを感じています。皆さんはいかがでしょう。昨年から引き続きこの一年も新型コロナウイルスに振り回された一年でした。まだこの状況は来年も続きそうです。心配になったり不安な気持ちになったりすることが多いと思います。しかし、自分ではこの環境を変えることは出来ません。このようにつらい状況に置かれることは長い人生の中で一度ならずあるのではないのでしょうか。そんな時、自分の体と心を守りその状況を乗り越えて行くためにどうしたらいいのでしょうか。つらい状況を乗り越えてきた人々に共通していることがあります。それは将来への希望を持つことです。今のこのつらい状況が終わったらこういうことをしようと思えることが出来た人です。私たちのまわりの環境や状況は早々変わるものではありません。でも自分がどう考えるのかは自分で決められます。自分の心持が変わるとまわりは何も変わらないけど前を向いて耐えることが人間には出来ます。コロナ禍が終わったらどういうことをしたいか、どんな生活を送りたいか、考える良い機会ではないかと思えます。北部の担当になって3ヶ月ですが、色々お世話になりました。来年もよろしくお願い致します。良いお年をお迎えください。

(寄稿 大東市地域包括支援センター作業療法士 藤田紀子)

大東市北部地域包括支援センター	072-800-3766
大東市基幹型地域包括支援センター	072-800-5374

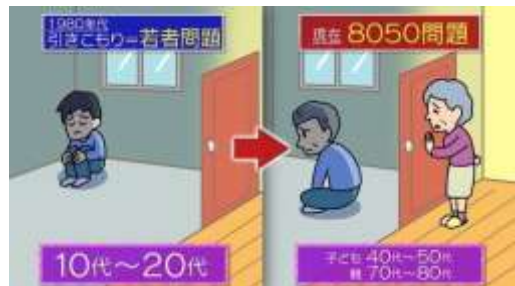


◎緊急事態宣言が解除され、2ヶ月たちました。少しずつ行動範囲が広がってきているこの頃かと思いますが、今月は8050問題について触れてみたいと思います。

8050問題とは・・・引きこもりの若者が存在していたがこれが長期化すれば親も高齢となり、収入に関してや介護に関してなどの問題が発生するようになる。これは80代の親と50代の子の親子関係での問題であることから「8050問題」と呼ばれるようになったそうです。該当している親子の親には収入がなくなっている状態であり、様々な理由から外部への相談も難しく、親子で社会から孤立した状態に陥っていることを指します。

《8050問題を抱えている家庭へのアプローチ》

- ①引きこもりの家族がいることを相談された場合は、話をしてくれた事を労い、日々の家族対応のご苦勞を傾聴するようにしていく。
- ②無理に引きこもりの若者に会おうとせず、日々の生活の中で会った際に気軽に挨拶して面識をつけておく。
- ③引きこもりの家族へは、スモールステップのアドバイスしていく。一足飛びに就職するように伝えたり、病院受診や障害手帳の取得を早期にするようにプレッシャーをかけない。
- ④引きこもりの若者は何らかのサインを出してくることがある。家族はサインを見逃さず、サインを出したら、相談してくれるようにアドバイスする。



地縁や血縁を頼れない人が増えた社会だからこそ、個人が互いにケアし合う道も探っていかなければなりません。

※隣近所お互いに見守り・助け合い安心に過ごしたいですね

<p>安心・いきいきネット相談支援センター慶生会 住道 CSW*本田 栄子* ☎072-806-2880</p>
--